HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	韓国における新党の研究 ： 選挙参加・議会進出・持続/消滅［論文内容及び審査の要旨］
Author(s)	朴, 權浩
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(法学)
Dissertation Number	甲第12830号
Issue Date	2017-09-25
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/67366
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.1/jp/
Type	doctoral thesis
File Information	Kwonho_Park_abstract.pdf, 論文内容の要旨

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

博士（法学）　朴　權　浩

学 位 論 文 題 名

韓国における新党の研究
――選挙参加・議会進出・持続／消滅――

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

本論文は、韓国における新党の選挙参加（entry）、議会進出（advance）、そしてその後の持続（duration）とその打ち切りとしての消滅（vanishing）に関する研究である。韓国では、民主化後の自由な選挙に数多くの新党が参加してきた。それら新党に関する総合的な研究は、同国の政党システムの定着・固定化の過程や政党発展の経路を理解し評価するさい、重要な示唆を与えるものと考える。

本論文は、韓国の新党の選挙参加と議会進出、そしてその後の持続／消滅に影響を与える要因を明らかにすべく、既成政党と新党とのあいだに生じる相互作用を競争ステージごとに詳細に分析する。本論文は、第 1 章「新党の類型的特徴」、第 2 章「EAD/V モデル」、第 3 章「EAD/V モデルの検証Ⅰ：選挙参加と議会進出」、第 4 章「EAD/V モデルの検証Ⅱ：持続／消滅」という構成をとる。

まず第 1 章では、新党を「初めて選挙に参加した政党」と定義したうえで、起源と目標という 2 つの基準に基づき新党を分類する。議会外部型新党（G 型）と議会内部型の分裂型新党（S 型）・合併型新党（M 型）は起源に基づく類型であり、政策追求型新党（P 型）のイデオロギー型新党（PId 型）・争点型新党（PIs 型）と政権追求型新党（O 型）は目標に基づく類型である。そして、どのような新党が選挙に参加し議会に進出したかを考察し、さらに議会に進出した新党の持続性レヴェルを類型ごとに比較するとともに、重要な選挙関連指数とこれらの新党動向とのあいだの連関性もあわせて確認した結果、以下のような知見が得られた。選挙に参加した 74 の新党のなかでは G−O 型新党の割合が最も高く、近年は G−PIs 型新党の参加も多く見られるものの、議会に進出した 24 の新党のほとんどは S−O 型新党と M−O 型新党である。そして議会に進出した新党の持続性は全般的に低いものの、類型ごとの差は明確であり、P 型新党の持続性は O 型新党に比べてはるかに高い。選挙関連指数のうち選挙

変易性指数と有効政党数の変動は、G 型新党を通じてもたらされるのではなく、議会内政党の動きに起因しており、投票率と新党の選挙参加や議会進出の動向とのあいだには関連性が認められない。さらに選挙への接近可能性と新党の選挙参加のあいだにも明確な関連性がなく、非比例性指数に関しては、同じ選挙制度のもとでもそれは選挙ごとに異なり、選挙制度の比例性の変化だけで新党の動向の変化を説明するのは困難である。

続く第 2 章では、国家間比較研究で通常用いられる変数を 1 国単位の研究に直ちに流用することの限界を踏まえ、新たに独自の EAD/V モデルを構想し提示した。その予想するところとして重要なのは 2 点、第 1 に新党の選挙参加、議会進出、持続／消滅に影響する要因はそれぞれの政党間競争ステージごとに異なる、第 2 に新党の選挙参加、議会進出、持続／消滅に影響する要因は、新党の類型、とりわけその目標によって異なる、というものである。

そのうえで第 3 章の前半では、この EAD/V モデルに基づき、まずは新党の選挙参加について定量的分析と定性的分析を行なった。分析の結果、EAD/V モデルが予想したように、P 型新党の選挙参加は社会経済的変化（POSⅡ）のうちの一人あたり GNI と大学進学率との関連性が O 型新党のそれよりも強かった。逆に O 型新党の選挙参加は、既成政党間競争構造（POSⅠ）のうちの、直前の全国選挙結果での 2 大政党の得票の差および議会政党の分裂度との関連性が P 型新党のそれよりも強かった。

ついで第 3 章の後半では、新党の類型、POSⅠ・POSⅡ、および新党の能力を示す 3 つの変数（公認率、選挙費用、可視性）と新党の議会進出状況とのあいだの関連性について 10 の仮説を立て、回帰分析を用いた定量的分析と定性的分析の両者を用いてそれらの妥当性を検証した。まず新党の起源と目標、ならびに新党の能力を示す 3 つの独立変数を投入したモデルⅠの分析結果は、新党の議会進出に最も大きな影響を与える要因が可視性であることを示した。また選挙費用も、弱いながらも新党の議会進出に影響を与えていることが確認できた。一方、新党の類型、POSⅠ・POSⅡ、新党の能力のすべての変数を投入したモデルⅡの分析の結果、新党の議会進出に最も大きな影響を与える要因は依然として可視性であること、さらに選挙費用の効果もモデルⅠの結果とほぼ変わりないことが判明した。この 2 つの影響要因のほかに唯一新党の議会進出に影響したのは、POSⅠを構成する変数のひとつである議会政党の分裂度である。このような結果は、EAD/V モデルの予想にたがわず、新党の議会進出に影響する要因は新党の能力と議会政党間の競争の結果として生まれる政治的状況であることを示している。

第 4 章では、新党の持続／消滅に影響する可能性がある 4 つの要因について分析したが、定量的分析の結果、新党の議会進出レヴェルおよび新党の起源と新党の持続／消滅とのあい

だに明確な関連性を確認できなかった。ついで Strøm（1990）の政党行動モデルと空井（2010）の政党間競争連鎖モデルを用いながら、新党の持続／消滅の過程を定性的に分析したが、その結果、以下の 4 点が明らかとなった。第 1 に、民主化後の韓国の政党間競争は拮抗する 2 大政党を中心に展開され、ほとんどの O 型新党は 2 大政党との合流によって消滅する。第 2 に、2 大政党と新党とのあいだに生じる戦略的相互作用は、対立、合併、政策協調、候補者一本化、連立政府形成など多様であり、これは分割政府という 2 元代表制に特有の政治的状況によってもまた大きく影響される。第 3 に、政党間競争の布置（配列順序）の違いが新党の持続／消滅に影響する。第 4 に、政党間競争が備える連鎖性により、前の政党間相互作用の結果が次の政党間相互作用に影響を与え、そのなかで新党が消滅する。

第 3 章と第 4 章の分析結果からは、民主化後の韓国で競争する政党の性格と政党間競争の特徴として、以下の 2 点が挙げられる。第 1 に、新党はそのほとんどが O 型新党であり、さらにその大半が 1 人のリーダーを中心にした、固い支持基盤を持たない「企業家型」のそれである。第 2 に、「包括政党」的性格を持つ 2 大政党は政権獲得目標を達成するために、政党間競争に参加する新党の目標に応じて多様な戦略を行使し、多くの新党が 2 大政党と相互に作用し、その過程で大部分が消滅する。本研究の分析結果からは、社会経済的変化に伴い新党、とりわけ G 型新党の選挙参加が今後も続くものの、その成功の見込みは薄いと予想される。とはいえ、2 大政党の失敗により均衡状態が崩れたとき、知名度の高い政治的リーダーが率いる G 型新党の成功可能性は残るだろう。

本論文で提示した EAD/V モデルは、政党システムを構成する主体的アクターである政党の目標の違いをモデルの主軸に据えたものであり、国家間の比較研究に適用するさいには限界を示す可能性があるものの、1 国単位で新党の選挙参加、議会進出、持続／消滅を説明するさいには有効なモデルであり、そのことは、本論文の韓国に関する分析を通じて一定程度証し立てられたものと考える。ただし、モデルのさらなる精緻化と、韓国以外の国の新党現象の説明におけるモデルの有効性の確認は、今後に残された課題である。